

第1回塩竈市総合教育会議 概要報告

1. 日 時 令和4年9月28日(水)
開会 14時30分 閉会 15時30分
2. 会 場 塩竈市立第二小学校(図書室、6年2組)
3. 出席者 塩竈市副市長 佐藤 靖(市長代理)
塩竈市教育委員会
教育長 吉木 修
教育長職務代理者 高橋 輝兆
委員 松田 攝子
委員 佐藤 香
委員 菅井 信吉

(事務局)
総務部長 佐藤 俊幸
総務部参事兼政策調整管理監 末永 量太
総務部政策課長 木皿 重之
教育部長 鈴木 康則
教育部次長兼教育総務課長 小倉 知美
教育部参事兼学校教育課長 松崎 和佳子
教育部教育総務課課長補佐兼教育総務係長 鈴木 亮平
教育部学校教育課学習支援係長 木村 宜智
教育部教育総務課教育総務係主査 片山 太郎
4. 次 第 (1)説明:学校におけるタブレット端末の活用について(木村係長)
(2)授業視察:6年2組(佐藤 嘉美 教諭)
(3)意見交換

5. 概要

○開会

○副市長あいさつ

○議事

(1) 学校におけるタブレット端末の活用について

事務局から別紙「学校におけるタブレット端末の活用」について説明。

※意見等なし

(2) 授業視察（6年2組）

佐藤嘉美教諭によるタブレット端末を活用した授業内容を視察。

①円の面積の復習（AI型ドリル）

②和音の音で旋律づくり（クロムミュージックラボ）

※詳細は別紙「授業デザイン参照」

(3) 意見交換

【主なもの】

〈菅井委員〉 本日は、授業の中でのタブレット活用を拝見したが、科目の得手不得手がある中で、自宅に持ち帰って苦手な単元について復習を行ったり、逆に得意な分野についてはより発展的に学習したりということは可能か。

〈木村学習支援係長〉 本市ではタブレット端末の持ち帰り学習を推進しており、家庭での学習は可能。なお、今回使用したソフトは、端末にインストールしているアプリケーションではなく、ブラウザ上で利用するものとなっているので、通信環境さえあれば自宅のパソコンをはじめとした様々な端末からでも利用は可能である。

〈松田委員〉 AI型ドリルについては、学年に応じてどのように活用されているのか。

〈木村学習支援係長〉 本市で導入しているAI型ドリルは、小学1年から中学3年までの学習内容が盛り込まれており、例えば小学校6年生が中学3年の問題に挑戦することも可能である。また、特定の問題でつまづいた場合、何が原因でつまづいたかわからない生徒も多くいるが、AIが個人の結果に応じて問題を自動構成し、場合によっては中学生に対して小学校で学ぶ単元を出題するなど、習熟度に応じて苦手やつまづきを可視化し補充することができる。このように、勉強があまり得意ではない児童生徒は、自分のペースにあった学習が可能で、一方で、得意な児童生徒はより発展的に学習することができるようになっており、個別最適な学びの実現に寄与している。

〈松田委員〉 個別最適な学びの実現という視点で、児童生徒に適した学びを実践できるということは、とても良い活用の仕方であると考え。一方でノートを使用し、自分の学びの経過を残しておくことも必要な取り組みであるため、それらをうまく併用しながら進めてほしい。

- 〈高橋委員〉 AI型ドリルについて、児童生徒の取り組み状況、問題の正答率等について教員が把握することは可能か。
- 〈木村学習支援係長〉 取り組んだ問題の正答率をはじめとし、課題の進捗状況や自宅での取り組み状況など、児童生徒の学習状況の詳細が把握できる仕様である。
- 〈高橋委員〉 タブレットを活用した授業については、想像以上に優れていて感心した。今後もこの取り組みを発展させてほしい。
- 〈佐藤委員〉 授業の中で、わからないことがあった児童が、すぐにほかの児童に質問したり、逆につまずいている児童に対しては声掛けを行って協力して取り組んだりしている姿が印象的で、学び合いの姿勢が染みついていてと実感した。一方で心配事としては、タブレットの画面に近づきすぎてしまっている児童も散見されたことから、健康面での配慮も併せて行っていく必要があると感じた。
- 〈木村学習支援係長〉 塩竈市では、タブレットの使用に当たっての約束事を定めて、児童生徒に配布している。特に健康面に配慮して、目から離して使用することや、長時間連続して使用しないことなどの内容を盛り込んでいる。今後も、引き続き健康面に配慮した対応を徹底してまいりたい。
- 〈副市長〉 個人的に、AI型ドリルをはじめとしたタブレット端末による学習については懐疑的な部分もあったが、本日の授業を拝見して非常に有効に活用されているものと感心した。
- 〈菅井委員〉 手書きのノートとタブレットの使用比率については把握しているか。
- 〈木村学習支援係長〉 比率については把握していない。一方で児童の発達段階に応じた学習が必要で、低学年では鉛筆で書かせる授業がメインとなっている。AI型ドリルはあくまで学習のツールでしかないため、例えば、授業導入の数分間や最後のまとめのみ使用するなど、うまく使い分けている。
- 〈教育長〉 本日、ご覧いただいた授業ではどうしてもタブレットに目が行きがちになってしまうが、そのベースにあるのがこれまで本市が推し進めてきた「学びの共同体」である。ご覧いただいたとおり、授業の中で学び合いが簡単にできているように見えるのは、これまで様々な教科の中で学び合いの取り組みを積み重ねてきたからである。今後とも、「学びの共同体」としての取り組みを一層深めていきたい。

○閉会